



TITLE:

学術情報基盤強化経費（約1.67億円）の配分を受けて図書館機能の強化・充実を図っています

AUTHOR(S):

CITATION:

学術情報基盤強化経費（約1.67億円）の配分を受けて図書館機能の強化・充実を図っています. 静脩 2007, 43(3-4): 10-10

ISSUE DATE:

2007-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/39326>

RIGHT:

学術情報基盤強化経費(約1 67億円)の配分を受けて 図書館機能の強化・充実を図っています

平成 18 年度から京都大学における戦略的な財政運用策のひとつとして、戦略的・重点的配分経費枠に基盤強化経費が創設されました。これには全学機構および全学施設の運営費や活動費等の支援経費が含まれています。

これまで、学習・教育・研究のインフラストラクチャーである学術情報基盤としての図書館機能の強化・充実のために全学的な運用が必要とされる事業について、全学の図書館が共同で学生用・留学生用図書経費や遡及入力経費、電子ジャーナル契約のための経費等を毎年要求してきましたが、平成 17 年度までは単年度経費である全学共通経費や総長裁量経費の枠組みしかありませんでした。学術情報基盤としての図書経費は、性格的に単年度経費にはなじまないと同時に、従来の枠組みは単年度ごとに変動を繰り返す不安定な財源であったと言えます。

今回、運営費交付金を財源とする基盤強化経費が創設され、図書館機構に学部学生用図書経費、留学生用図書経費、遡及入力経費、電子ジャーナル経費、データベース経費、貴重書補修経費として約 167,000 千円が配分されました。執行結果の報告や次年度の要求は図書館協議会を介して実施しますが、少なくとも第 1 期中期計画の残る 3 年間は安定財源になりますので、年度当初からの計画的執行・運用が可能になり、これまでより安定した図書館運営、強化・充実策が実施できるものと期待しています。

図書館機構は、全学的に図書館機能の強化・充実を図るため、効果的・効率的にこの経費を活用し、

適正な執行に努めています。

学部学生用図書については、毎年学部学生 1 人あたり 1 冊の新刊図書の購入を目指しています。学生からの購入希望図書も受け付けています。是非図書館機構や附属図書館の HP から申し込んでください。留学生用図書については、留学生センターと共同して充実を図っています。蔵書データの遡及入力は中期目標・中期計画として平成 16 年から 6 年で 210 万冊の遡及入力を達成する計画を立て、進行中です。各部局の独自経費による努力と基盤強化経費の支援を受け、平成 18 年度末までには年度計画の 42 万冊を超える入力を達成できる予定です。

国宝・重要文化財を含む貴重な資料を多数所蔵する京都大学には、人類の遺産とも言うべき貴重な資料がありますが、その中にはまだ修復されず、劣化状態のまま残っているものが少なくないため、それらの修復を計画的に推進します。

電子ジャーナルについては、図書館協議会で全学的な協力・連携・調整の体制作りの真最中です。残念ながら他の大規模大学に比べて、京都大学では十分な雑誌タイトルの提供ができていない状況であり、その抜本的な打開に向けて検討を重ねています。いっそうの全学的な財源措置が求められています。

今後、図書館機構として、将来構想を策定しながら、世界に卓越した大学を目指す京都大学にふさわしい学術情報基盤の強化・充実を図って行く所存です。

(文責：大西図書館機構長)